



TITLE:

4.外国人研究員・研修員 5.日本人  
研究員・研修員 6.研究支援推進員  
7.研究集会(II.研究所の概要)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

4.外国人研究員・研修員 5.日本人研究員・研修員 6.研究支援推進員  
7.研究集会(II.研究所の概要). 霊長類研究所年報 2005, 35: 70-74

ISSUE DATE:

2005-08-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166188>

RIGHT:

### 3. 学位取得者と論文題目

#### 京都大学博士（理学）

福原亮史（課程）

論文題目：Molecular Cloning, Gene Expression, and Evolution of Enzymes That Scavenge Reactive Oxygen Species in Primates（霊長類での活性酸素消去酵素のクローニング、遺伝子発現、および分子進化）

細川貴之（課程）

論文題目：Neuronal Responses of the Macaque Orbitofrontal Cortex Related to the Prediction of Rewarding and Aversive Outcomes（報酬および嫌悪の予測に関わるサル前頭眼窩野ニューロン活動）

李珠美（論文）

論文題目：Molecular Genetic Analysis of Human Endogenous Retroviruses (HERVs) in Primates: Expression, Evolution and Phylogeny（霊長類におけるヒト内在性レトロウィルス（HERVs）の分子遺伝学的解析：発現、進化、系統）

#### 京都大学修士（理学）

木場礼子

論文題目：ニホンザルにおける同種他個体の性の認識—弁別と選好性—

Rizaldi

論文題目：ニホンザル放飼場群における攻撃行動の社会的発達

### 4. 外国人研究員・研修員

#### 外国人研究員

Sachithanatham Sri Kantha（スリランカ民主社会主義共和国）

受入区分：人類進化モデル研究センター客員教授

研究課題：新世界ザル類の日内行動リズムの比較研究

招聘期間：2004年4月1日～2005年3月31日

#### 招聘外国人学者・外国人共同研究者

Leca, Jean-Baptiste（フランス共和国, ルイ・パストゥール大学・講師）

受入教員：Micheal Alan Huffman

研究課題：ニホンザルの文化的行動研究

招へい期間：2003年8月9日～2004年8月8日

黄乘明（中華人民共和国, 桂林廣西師範大学生物系教師兼所長）

受入教員：竹中修

研究課題：種々の遺伝学的研究方法の修得, 中国希少種の保全生態学的研究

招へい期間：2004年1月16日～2004年7月5日

Malaivijitnond, Suchinda（タイ王国, チュラロンコーン大学理学部・助教授）

受入教員：濱田穰

研究課題：タイ王国に分布するマカク類の遺伝的多様性研究

招へい期間：2004年3月14日～2004年6月1日

Urasopon, Nontakorn（タイ王国, ウボンラチャタニ大学農学部・講師）

受入教員：濱田穰

研究課題：マカクサル類における内分泌動態と骨密度変化に関する研究

招へい期間：2004年3月14日～2004年6月18日

李珠美（大韓民国, 釜山大学理学部大学院・博士候補者）

受入教員：竹中修

研究課題：霊長類における内在性ウィルス遺伝子の研究

招へい期間：2004年3月22日～2004年9月22日

Dyah Perwitasari-Farajallah（インドネシア共和国, ボゴール農科大学・講師）

受入教員：川本芳

研究課題：インドネシア産カニクイザルの遺伝的多様性に関する研究

招聘期間：2004年4月1日～2004年4月24日

Wijayanto, Hery（インドネシア共和国, ガジャマダ大学獣医学部・講師）

受入教員：平井啓久

研究課題：テナガザルの染色体解析

招聘期間：2004年5月11日～2004年6月5日

招聘期間：2005年2月1日～2005年3月1日

Kim, San Ha（大韓民国, ソウル大学・研究員）

受入教員：松沢哲郎

研究課題：チンパンジーの認知発達における社会的行動

招聘期間：2004年5月18日～2004年9月8日

Petrzelkova, Klara (チェコ共和国, チェコ科学アカデミー脊椎動物研究所・研究員)

受入教員: Michael Alan Huffman

研究課題: タンザニア・ルボンド島のチンパンジーにおける採食行動・薬草利用の可能性について

招聘期間: 2004年6月2日～2004年8月18日

Hampton, Robert (アメリカ合衆国, アメリカ国立精神衛生研究所・研究員)

受入教員: 松沢哲郎

研究課題: チンパンジーにおける記憶にかんする意識とメタ認知

招聘期間: 2004年7月1日～2004年8月19日

Smith, David Glenn (アメリカ合衆国, カリフォルニア大学・教授)

受入教員: 鈴木樹理

研究課題: 飼育下マカクコロニーの遺伝学的マネージメントに関する研究

招聘期間: 2004年8月18日～2004年9月25日

Boug, Ahmad Ibrahim Yousef (サウジアラビア王国, 国立野生生物研究センター・研究員)

受入教員: 森明雄

研究課題: サウジアラビアのマントヒヒの生態資料の分析

招聘期間: 2004年11月28日～2004年12月26日

Lemasson, Alban (フランス共和国, ラトガーズ大学リサーチアソシエイト)

受入教員: 正高信男

研究課題: ニホンザルとテナガザルの音声コミュニケーションに対する社会的影響

招聘期間: 2004年11月30日～2005年8月23日

Jubin, Ronan (フランス共和国, ラトガーズ大学リサーチアソシエイト)

受入教員: 正高信男

研究課題: ニホンザルの音声分析について

招聘期間: 2004年11月30日～2005年8月23日

Ranoroosa, Marie Claudine (マダガスカル共和国, ツィンバザザ動植物公園・サル類飼育健康管理部助手)

受入教員: 田中洋之

研究課題: シファカの採食選好性の栄養学的・薬理的

#### 調査

招聘期間: 2004年12月2日～2005年2月10日

Kang Kyung Hwa (大韓民国, Dong-eui University・常勤講師)

受入教員: 景山節

研究課題: 肥満ニホンザルのレプチン, アディポネクチンとこれらの受容体の遺伝子クローニングおよび分子進化研究)

招聘期間: 2005年3月2日～2006年2月28日

Mashchenko, Evgeny (ロシア連邦, ロシア科学アカデミー・古生物学研究所・主任研究員)

受入教員: 高井正成

研究課題: オナガザル上科化石の解析及び研究打ち合わせ

招聘期間: 2005年3月17日～2005年3月31日

#### 研究生 (研究留学生)

Zin Maung Maung Thein

受入教員: 茂原信生

受入期間: 2004年4月1日～(京大で日本語研修) 2004年10月1日～2005年3月31日

Martinez Laura

受入教員: 松沢哲郎

受入期間: 2004年10月1日～2005年3月31日

Jaman Mohammad Firoj

受入教員: Michael Alan Huffman

受入期間: 2004年10月1日～2005年3月31日

#### 特別研究学生 (外国人)

Rattanaorn Hanta

研究題目: 東南アジア後期新生代の化石哺乳類の分類学的研究

受入教員: 濱田稔

受入期間: 2003年10月1日～2004年9月30日

#### 5. 日本人研究員・研修員

日本学術振興会特別研究員 (PD)

伊藤 (大塚) 麻里子

受入教員: 竹中修

研究題目: 内分泌攪乱物質が雄マカクザルの精子形成に及ぼす影響—ヒト精子形成障害モデルの確立

受入期間：2003 年 4 月 1 日～2006 年 6 月 30 日（中断  
期間：2003 年 10 月 1 日～2003 年 12 月 31 日）

座馬耕一郎

受入教員：上原重男・Michael Alan Huffman

研究題目：野生チンパンジーにおける利他行動の進化

受入期間：2003 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日

鏑本武久

受入教員：茂原信生

研究題目：ボンダウン層の哺乳類化石の記載と東アジア  
の新生代前半における哺乳類の進化

受入期間：2003 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日

早川祥子

受入教員：竹中修・Michael Alan Huffman

研究題目：ニホンザルの群れ間遺伝子交流とその進化

受入期間：2003 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日

半谷吾郎

受入教員：上原重男・Michael Alan Huffman

研究題目：霊長類の社会構造の進化に環境と系統が与  
える影響

受入期間：2003 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日

#### 受託研究員

佐藤崇

受入教員：中村伸

研究題目：サルモデルでのアレルギー・免疫応答に関  
する研究

受入期間：2004 年 4 月 1 日～2004 年 9 月 30 日

#### 研究生

平石博敏

受入教員：正高信男

研究題目：高次脳機能画像法を用いた高機能自閉症児  
の情報処理過程の研究

受入期間：2004 年 4 月 1 日～2005 年 3 月 31 日

#### 非常勤研究員

姉崎智子

研究課題：東アジアおよび東南アジアの先史時代遺跡  
出土の動物遺存体による人類史復元

所属分野：系統発生分野

研究期間：2004 年 4 月 1 日～2005 年 3 月 31 日

天野（早野）あづさ

研究課題：テナガザル類の種分化・亜種分化に関する  
分子遺伝学的解析

所属分野：遺伝子情報分野

研究期間：2004 年 4 月 1 日～2005 年 3 月 31 日

川合（久保）南海子

研究課題：ニホンザルとヒトにおける老化にともなう  
行動と脳機能の変化に関する実験的研究

所属分野：認知学習分野

研究期間：2004 年 4 月 1 日～2005 年 3 月 31 日

下岡ゆき子

研究課題：ニホンザルのサブグループの機能的意  
味についての研究

所属分野：社会構造分野

研究期間：2004 年 4 月 1 日～2005 年 3 月 31 日

森琢磨

研究課題：幼若期サルの一次視覚野における可塑性に  
対する神経栄養因子の関与

所属分野：器官調節分野

研究期間：2004 年 4 月 1 日～2005 年 3 月 31 日

#### 研修員

田代靖子

研修題目：アフリカ大型類人猿の社会・生態学的研究

受入教員：大澤秀行

研修期間：2004 年 4 月 1 日～2005 年 3 月 31 日

船越美穂

研修題目：中部山岳地帯に生息する野生ニホンザルの  
生態

受入教員：渡邊邦夫

研修期間：2004 年 4 月 1 日～2005 年 3 月 31 日

#### 特別研究学生

土居裕和

研究題目：身体的制約の認知と、それに対する動詞の  
マッピングに関与する脳内機序の解明

受入教員：正高信男

受入期間：2004 年 4 月 1 日～2005 年 3 月 31 日

## 6. 研究支援推進員

氏名	採用期間
川本咲江	2004 年 4 月 1 日～2005 年 3 月 31 日
小林陽子	2004 年 4 月 1 日～2005 年 3 月 31 日
梅田せつ子	2004 年 4 月 1 日～2005 年 3 月 31 日
高木かおり	2004 年 4 月 1 日～2005 年 3 月 31 日
熊谷かつ江	2004 年 4 月 1 日～2005 年 3 月 31 日
山内志乃	2004 年 4 月 1 日～2005 年 3 月 31 日
中野千枝子	2004 年 4 月 1 日～2004 年 9 月 30 日
葉栗和枝	2004 年 4 月 1 日～2005 年 3 月 31 日
松澤美津子	2004 年 4 月 1 日～2005 年 3 月 31 日
高島友子	2004 年 12 月 1 日～2005 年 3 月 31 日
山内英典	2004 年 12 月 1 日～2005 年 3 月 31 日

## 7. 研究集会

### 所内談話会

第1回：2004 年 5 月 24 日（月）

Mathew E. Brevard (University of Massachusetts Medical School, USA) “Magnetic resonance imaging studies in conscious primates”

第2回：2004 年 7 月 8 日（木）

Jan R. de Ruiter (Evolutionary Anthropology Research Group University of Durham, UK) “Different types of genetic investigations to explain the behaviour of various primates”

第3回：2004 年 7 月 20 日（火）

James Anderson (University of Stirling, UK) “Yawning in primates: from reflex to reflection”

第4回：2004 年 11 月 11 日（木）

Laura Newell-Morris (Department of Anthropology, University of Washington, USA) “Macaques as biomedical models for caloric restriction, human aging and spinal osteoarthritis: what we have learned and where we go from here.”

第5回：2004 年 2 月 17 日（金）

Alban Lemasson (認知学習 外国人特別研究員) “Vocal sharing and social dynamic in campbell's monkey”

第6回：2004 年 1 月 11 日（火）

Peter Brown (School of Human and Environmental Studies, University of New England, UK) “New small-bodied hominin discoveries from Flores, Indonesia.”

（文責：上野吉一）

### 霊長類学ゼミナール

日時：2004 年 12 月 10 日 10:00～15:30

会場：京都大学霊長類研究所大会議室

参加者：約 40 人

### <口頭発表>

- 1) 倉岡康治/Koji Kuraoka (認知学習) 「情動刺激に対するサル扁桃核及び前部上側頭溝ニューロン応答の解析」Responses of single neurons coding emotional expressions in the amygdala and the anterior superior temporal sulcus of monkeys.
- 2) 香田啓貴/Hiroki Koda (認知学習) 「野生ニホンザ

ルの発声頻度の地域差」 The frequency ratio of calls in wild Japanese macaques is determined by the environmental factors, not the inherited background.

- 3) 田中美希子/Mikiko Tanaka (遺伝子情報)「マダガスカル, ベレンティ保護区のチャイロキツネザルの生息地利用と社会構造」Habitat use and social structure of brown lemurs at Berenty Reserve, Madagascar.

#### <ポスター発表>

- 1) 石川直樹/Naoki Ishikawa (行動発現)「眼球運動課題遂行におけるサル前頭連合野ニューロン活動の解析(研究計画)」Neural activities of prefrontal cortex in Macaque Monkeys during the behavioral control of saccade eye movements. (Proposal).
- 2) 鈴木真理子/Mariko Suzuki (社会構造)「サルたちはどのようにして群れのまとまりを維持しているのかー集団移動の調節と個体の空間配置に関する研究紹介と修士研究計画案ー」How does a group of primates maintain cohesiveness? -Introduction studies on group movement and distribution individuals-.
- 3) 山口智恵子/Chieko Yamaguchi (認知学習)「給餌者の状態がニホンザルのフードコールに与える影響」Relationships between experimenter's body and face orientations and food-calls in Japanese monkeys.
- 4) 山本真也/Shinya Yamamoto (思考言語)「トークンを介した食物獲得における、チンパンジー2 個体間の社会的交渉」Social interaction between two chimpanzees for using tokens to get food.
- 5) 親川千紗子/Chisako Oyakawa (認知学習)「アジルテナガザルのデュエットにおける変異性」Variability in the duet of wild agile gibbons.
- 6) 鄭アラム, 光永総子, 山内英典, 中村伸/ A-Ram Jeong, Fusako Mitsunaga, Hidenori Yamauchi, Shin Nakamura (遺伝子情報) Expression profile of cytokine and its receptor genes in primates using real-time PCR.
- 7) 託見健/Ken Takumi (器官調節)「マカクサルの春機発動期開始にともなう GnRH ニューロンへのシナプス入力の変化 (研究計画)」Pubertal changes in synaptic inputs to GnRH neurons in hypothalamus of macaque monkey.
- 8) 林美里/Misato Hayashi (思考言語)「チンパンジーの積木積み」Stacking blocks in chimpanzees.
- 9) 東濃篤徳, 福原亮史, 手塚修文\*, 景山節/ Atsunori Higashino, Ryoji Fukuhara, Takafumi Tezuka and Takashi Kageyama (人類進化モデルセンター\*名古屋文理大)「ニホンザルにおけるストレスタンパク質の cDNA クローニングと組織での遺伝子発現」Molecular cloning and gene expression of stress proteins in Japanese monkey.
- 10) 松野響/Toyomi Matsuno (思考言語)「チンパンジーにおける運動刺激をもちいた視覚弁別」Visual discrimination of moving stimuli in chimpanzees and humans.
- 11) 山田彩/Aya Yamada (野外施設)「農作物被害を起こす野生ニホンザルの生態学的研究 -研究計画」Ecological study of Japanese macaques raiding crop fields -research plan.
- 12) 土居裕和/Hirokazu Doi (東大総合文化研究科)「音声と顔の”動き”の異種感覚統合」Intermodal matching of voice and "dynamic" face.

霊長類学総合ゼミナールは霊長類研究所内 TA を中心とした大学院生が企画, 運営する研究会であり, 京都大学霊長類研究所で研究活動を行う若手研究者が各自の研究成果を報告し, 討論することにより, 学術的交流を深めることを目的とする。今年度は, 大学院生による研究成果, 研究計画についての発表が行われ, 参加者はそれぞれ異なる専門分野への見識を高める機会となった。また, 様々な見地からの意見, 討論を受け, 発表者にとっても自身の研究に対して新たな視野を得る機会として, 極めて意義深い研究会となった。  
(TA:木場礼子, 託見健, 東濃篤徳 文責: 託見健)